

天覧山で見られるクモの紹介

飯能市立博物館 自然担当

酷暑が続く 8 月の盛夏、天覧山で元気に活動するクモたちについて紹介します。

越冬したクモたちや春に孵化したクモたちは、獲物である生きものたちが本格的に活動するこの時期、何回もの脱皮を繰り返し大きく成長しています。天覧山では、日本で見られる約 1,700 種のうちおよそ 200 種（※1）が確認されていて、山地や都市で見られるクモはもちろん、谷津田もあるので里山の種も多く、多様なクモを観察することができます。

クモは節足動物ですが、昆虫たちが頭部・胸部・腹部の脚 6 本であるのに対して、クモは頭部と胸部が一つになった頭胸部と腹部からなり脚も 8 本です。また 8 つの単眼（6 つや 4 つのこともあります）を持ち、大きな特徴は腹部先端の糸いぼから出す糸で、獲物を捕える網や住居、卵を保護する卵のう、移動時の命綱など用途は様々です。伸縮性に富むもの、粘着物質が含まれるものなど、クモはその用途によって使い分けているといわれるので、あんな小さな体に精密な仕組みがあることに驚かされます。そんなすごい糸はタンパク質で出来ていますが、網が壊れたり朽ちたりした時に、この糸を食べて網の張替えなどに再利用することもあるようです。ですので皆さん、クモの網を見つけてもはらわずにそっと見守ってください。

天覧山の山道ではクサグモやジョロウグモ、シロカネグモの仲間などが見られますが、草地できれいな渦巻き型の巣を見つけることもあります（写真 1）。渦巻き型の白帯が目立ちますが、この白帯は 2 タイプあり、空腹時は画像のように渦巻き型で、直線の時はいっぱい満腹なのだそうです。また、クモの巣は円網だけでなく立体網や扇形など多様ですが、網を張らずに葉や土の上などに徘徊してエサを獲るハエトリグモやコモリグモ、そしてカニグモの仲間（写真 2）などもあります。

谷津田では稲穂が青々と成長する時期、イナゴなどのイネの害虫にとって天敵であるナガコガネグモが多く見られるようになります。また、ヨシの葉に鳥のフンのような面白いクモ（写真 3）も見られます。葉の裏にいるのがクモで、ぶら下がっているのは子グモたちが詰まった卵のうで、しずく型の立体に感動する造形美です。奥深く面白いクモの世界は、まだまだ紹介しきれません。

【お知らせ】

飯能市平和都市宣言推進事業「こどもたちの戦争」 8 月 31 日曜日まで

【注釈】

※1 「東京蜘蛛談話会」クモ採集観察会の調査記録数値より

【引用・参考文献ほか】

「田んぼの生きものたちクモ」農文協 2014 年 6 月

「クモ ハンドブック」文一総合出版 2018 年 9 月

「クモの巣 ハンドブック」文一総合出版 2021 年 5 月

「クモのイト」ミシマ社 2019 年 9 月



写真 1 カタハリウズグモの網



写真 2 カトウツケオグモ
(カニグモの仲間)



写真 3 卵のうとオオトリノフン
ダマシ (右メス・左オス)